

箱根組ニュース

第364号 2023年 8月号

編集発行人 戸丸悟

箱根組は自然を大切にします！
各自保険に入って山に登りましょう！

北アルプスの北穂高岳、奥穂高岳、前穂高岳の三座を佐藤、戸丸の二名で踏破する！

7月26日(水)、バスタ新宿7時15分発に乗車。戸丸は1号車、佐藤は2号車。2台のバスは連なって出発。1号車の車内はほとんどの方が海外の方で国色豊かだ。

予定より少し遅れて12時半頃、上高地バスターミナルに到着。

河童橋手前の河原で穂高岳を眺めながら持参の昼食でお昼。猛暑の東京とは比べようのない涼しさだ。周辺はたくさん観光客であふれている。

今回の行程は4泊5日で横尾から涸沢、北穂高岳、奥穂高岳、前穂高岳と回って岳沢に降りるルートだ。

一日目は上高地から横尾山荘までの約3時間の短いコース。観光客も多い木道を進む、明神池前の穂高神社でお参りをし、徳沢を経由し横尾山荘に到着。お風呂に入り、夕食時にビールをいただきたい。早めに就寝。

7月27日(木)、二日目はこれまた涸沢までの3時間半ほどの短いコース。お昼頃にはついてしまうのでゆっくりゆ

っくり楽しみながら慎重に進む。

7時10分出発。横尾谷の涸沢に沿って屏風岩の丸い大きな岩の塊の山を左に回り込むように進む。途中、北穂高の山頂が見え、てっぺんの山小屋が確認できたのは驚いた。河原で休憩。新しい吊り橋は揺れて怖かった。

再出発、だんだん岩だらけの道になる。目の前に割と大きな雪渓が現れ、石段を登ると涸沢ヒュッテだ。12時前に到着。

一番奥の別館2階マッターホルンに荷物を下ろす。テラスで名物のおでんとジョッキの生ビールで乾杯。横尾山荘のお弁当とともに穂高の絶景を見ながら昼食。食べ終わるころ雨がぼつぼつ落ちてきて、部屋に戻ると大雨になる。横になつているといつの間にか熟睡。

目が覚めると雨が上がっていたので、水だけ持って散歩。北穂方面の涸沢小屋を経由して左周り、ザイテングラードの少し手前まで登って雪渓を渡って戻ってくる約2時間。5時の夕食にぎりぎり間に合った。8時前には就寝。



7月28日(金)、三日目は涸沢から北穂高岳に登り穂高岳山荘までの地図上で6時間、難易度もあり、やや長いコースだ。朝食前のイベントはやはりモルゲンルート。日の出の時に穂高の山々が山頂から見事に赤くなった。完全に日が出てしまうと嘘のように白っぽくなってしまった。

6時25分、北穂高岳目指して出発する。目の前に垂直に立ちはだかるような山に静かに向かってゆく。全日程の中で一番高度を稼ぐ一日だ。ヒマワリを小さく小さくしたようなウサギギクが可愛い。振り返ると涸沢が氷河によって削られたというのがよくわかる。雪渓もずいぶん残っている。前穂高岳から明神岳の大きなギザギザが後ろにそびえる。

8時38分、目の前の垂直のような岩場に長い鎖がぶら下がっている。上り下

収支	
繰越	18805 円
収入	
支出	
News/HP 作成費	500 円
当日プリント代	200 円
現在高	18105 円

りの人で譲り合いながらしっかり鎖を掴んで登りきる。登りきると奥穂から前穂の峰がぐつと近くなる。花畑が現れ、白や黄色の花が緑の斜面に咲いている。

10時過ぎると大きな岩のゴロゴロした坂になる。案内の丸印を確認しながら登る。その先には鎖場。ヨツバシオガマが赤紫に咲いている。黄色いミヤマダイコン草も。呼吸も少し苦しくなってくる。奥穂との分岐の標識を右に進みもうひと頑張り。

11時15分、北穂高山頂に到着。風が少しあるので、すぐ下の北穂高小屋で昼食。槍ヶ岳方面からたくさんの方が到着して狭いテラスは人でいっぱいだ。景色を確認すると、昨年の燕から西岳そして槍ヶ岳への東尾根がはつきり確認できたのは嬉しかった。

12時10分、穂高岳山荘に向かつて出発。振り返ってみるとここからのルートがやはり一番難易度は高かった。高度感のある険しい岩場のアップダウンが続く、慎重さが求められる。他の団体や早い人を先に進めて落ち着いて進む。

途中で雨が降り出し。合羽

8月20日(日) 日光霧降高原ハイキング
らくだコース 約2時間

浅草から東武特急で東武日光駅まで、そこからバスで標高1300mから1600mの霧降高原へ。1445段の階段がありますが、階段を使わないで遊歩道でも登れます。

○持ち物 お弁当、飲料水、カップ、非常食、傘、雨具、着替え、タオル、筆記用具、救急薬品、(痛み止めスプレーなど)、健康保険証、ビニール袋、ティッシュペーパー、他

※申し込み締め切りは 8月18日(金)

※特急券。電車、バスのフリー切符などスマホで購入できます。(交通費 往復特急利用で約7300円)

○買い方がよくわからない方はご相談ください。

集合 8/20(日) 浅草駅 6:30 発
特急リバティーげごん1号 東武日光行き
東武日光 8:25 着
特急券をお求めください 片道 1650 円
バス乗り換え 霧降高原行
9:00 発 9:27 分着

※便利なキップ
○浅草～東武日光 デジタル日光世界遺産フリーパス 往復 2,500 円
○霧降高原フリーパス (バス往復 1500 円)
ジョルダンの乗換案内東武バス日光で買えます
帰りのバス 霧降高原 15:12 発

●お申し込み・お問い合わせ
Tel・Fax/ 03-3521-6898 戸丸
戸丸携帯 090-4541-7066

携帯メール: satorutomaru@gmail.com
メール: tomarusatoru@hotmail.com
箱根組ホームページ

https://tomarusatoru.wixsite.com/hakonegumi

を着て完全装備。滑りやすいのでより慎重にゆっくり進む。2時頃だろうか、昨日もそうだったが雷雨になる。激しい雨とそして雷が光ってから2秒ほどになったので、二人で身を低くしてしばらく雨の中やり過ごすことにする。時間はかかってないが、10分から15分ほど岩陰のところまで雷をやり過ごしていた。しばらくして稲光から10秒以上で音がするようになったので再出発する。ブルーシートを被っている面白い青年がいたので話をする。ブルーシート要ります



かと言われたので丁重にお断りしたが、その青年とは山小屋で同室だった。

雨の中、奥壁バンドという看板があった。滑落事故多発と書いてあった

気が引き締まった。この辺りが今回の一番の難所だろう。このような天気でも時折振り返ると槍ヶ岳の姿が確認できた。いくつもいくつも岩のアップダウンを鎖や梯子も使って乗り越えた気がする。午後4時、涸沢岳下の分岐に到着。穂高岳山荘の赤い屋根が眼下に見えホッとす。

午後4時半頃、山荘に到着。今回は別館に宿泊。岐阜大学医学部診療所の隣室だ。ゆったりと広くて快適だった。夕食前にビールを飲んでいると、メキシコの

青年と友人のスイスの青年と出会い、4人で日本語で話をした。二人とも日本在住で、未来の可能性を感じた。夕食後にはあつという間に熟睡。

7月29日(土) 4日目は、山荘から奥穂高岳を経由し前穂高に上り岳沢小屋までのやはり少し長いコースだ。4時50分頃、日の出。赤い太陽が常





念岳の右側に登ってきた。6時40分頃歩き出す。まずは小屋の横の急な岩を登る。先週こ

mほど滑落して足首を折った方がいるということ。少し緊張する。少し行くと緩やかな登りになり安心する。振り返るとすぐ近くの涸沢岳と昨日登った北穂高の間に昨年登った槍ヶ岳が鋭い山頂を見せている。まさに絶景だ。何度か穂高に来てはいるが、こんな景色は初めてだ。西側には堂々とした笠ヶ岳。反対側は前穂高と360度の大パノラマだ。少し進んで振り返ると槍ヶ岳が一層高く見えてくる。

8時28分、奥穂高岳山頂に到着。祠のある山頂は狭いので2〜3人しか登れない。手前の方位盤の辺りで、皆写真



の順番待ちだ。佐藤さんが富士山を発見する。南アルプスの北岳らしき稜線の左側にシルエットの富士がはつきりと見えた。近くにいた人にカメラのシャ

ッターを押していた。

8時50分、最後の前穂高に向かって歩き出す。この尾根は吊り尾根というが先週50代の女性が亡くなったというニュースが入ったばかりで慎重になる。昨日の奥壁バンドと比べればずいぶん楽に感じるが油断はできない。同じような形の岩のアップダウンが繰り返される。イワギキョウの紫が見事だ。11時40分頃、紀美子平着。前穂への分岐点だ。小休止し、ザックを置いて、水とカメラを持って前穂高山頂に向かってゆ

く。まさに岩ばかりのルートだ。4 慎重にいけばそれほど危険なところはない。

12時半、前穂高山頂着。槍ヶ岳、北穂高、奥穂高と絶景だった。1時過ぎ、紀美子平に戻って昼食。眼下の岳沢小屋上高地を眺めながら。

1時50分、下山開始。重太郎新道というこの道も要注意だ。鎖や梯子、危険マークが二つほどある。

5時頃、無事岳沢小屋に到着。カレーバイキングはお代わりした。

7月30日(日)最終日は上高地まで2時間のコース。乗鞍岳を見ながら下山し、木道で河童橋着。

上高地でお風呂に入り、バスターミナルで京都の青年と3人で信州蕎麦と生ビールを頂いた。地酒と枝豆、もつ煮、おでんもう良かった。

